

# 平成 30 年度第 2 回二戸市総合計画推進委員会 議事録

開催日時：平成 31 年 3 月 26 日（火）午後 1 時 30 分～5 時 20 分

会場：天台の湯

## 【出席委員（敬称略）】

佐々木春彦（副委員長）、（以下五十音順）阿部悦子、石輪成人、大建ももこ、小野寺功、黒沢一史、平 裕一、田家 亘、長葭常紀、浪岡正行、堀内晋介

## 【オブザーバー】

川上 隆 二戸市ふるさと支援アドバイザー

## 【説明のため出席した職員】

藤原 淳市長、大沢 治副市長、田中館淳一総務政策部長、石村一洋市民生活部長、小野一浩健康福祉部長、陳場範雄産業振興部長、久慈清隆建設整備部長、山本進浄法寺総合支所長、玉懸邦将教育部長、佐藤春彦総務政策部副部長兼財政課長、小野昭徳総務政策部副部長兼政策推進課長、五門市寿丸副主幹兼地方創生推進監、高山英人副主幹兼ふるさと支援係長、荒谷真也主任、斉藤梢主任

～～～ 開会 午後 1 時 3 0 分 ～～～

小野課長 本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。始めに、資料の確認をさせ  
(進行) ていただきたいと思います。

(資料の確認)

ただいまの出席委員は、11 名でございます。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

また本日、久慈浩委員長より、欠席のご連絡をいただいております。二戸市総合計画推進委員会設置要綱第 5 条により、副委員長の佐々木春彦様に、委員長代理をお願いいたします。なお、このほか、中里委員、三角委員より、欠席の連絡をいただいております。

それでは、平成 30 年度第 2 回二戸市総合計画推進委員会を開催いたします。

次第の 2、あいさつに移らせていただきます。始めに、委員長代理でございます、佐々木春彦様より、ごあいさつを頂戴します。

佐々木副委員長（委員長代理） 本日の委員会で、久慈委員長の代理を務めます、佐々木春彦と申します。一言ごあいさつ申し上げます。本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。二戸市の第 2 次総合計画前期基本計画は、平成 28 年度から始まりまして、いよいよ後半戦となります。昨年 7 月に開催いたしました、平成 30 年度第 1 回委員会では、地方創生交付金事業として整備し、リニューアルオープンした滴生舎や、数々の漆器が保管される収蔵庫などを見学いただき、また、平成 30 年度の各部の主要事業について、審議いただきました。今回の第 2 回委員会では、総合計画に掲げる各事業の進捗状況や、来年度の主要施策についてご審議いただきたいと思います。前期基本計画で掲げる事業が、成果となって表れるものもでございます。二戸市が進もうとしている方向性を見極める、大変重要な機会でございます。委員の皆さんからも、ぜひ、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

小野課長 佐々木副委員長、ありがとうございました。次に、藤原市長よりごあいさつ申し上げます。

藤原市長 本日は年度末の大変お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。また、日ごろ各分野におきまして、皆さまにはご尽力賜り、厚く御礼申し上げます。先ほど、副委員長さんからもお話がありましたとおり、進む方向というのが決まってきたところでございます。先日、平成

31年第1回議会も終了し、予算が167億ということで、合併以後2番目に大きい予算となっております。各方面においては、公民連携をはじめ、各事業を進めているところですが、総合計画4つの柱である、1つ目の「しごと・産業・交流」においては、今、産業への追い風が吹いていると感じております。プロイラーの日本一、これは本社が二戸市にあるということも大きいのですが、お酒についても世界39カ国への輸出が決まっていますし、チョコレートについても世界的大会で銅メダルという結果を出しておられます。また、去年は果樹やキュウリが良かったと言う話を聞いております。公民連携を進めている中で市民からお聴きするのが、「公民連携とは何だ。分かりづらい」という声でございます。また、「テロワールって一体、何をやるんだ」という声もございますので、これから我々が行うべきことは、どの地区でこういった内容の事業をどういうやり方で進めていく、ということの説明し、協力をいただくことだと思います。2つ目の「子ども・若者・女性」では、長年の課題であった病児保育施設の開設、またすべての児童クラブにおいて小学生児童の受け入れができるようになりました。今年度は、小中学校や保育所へのエアコン設置を進めてまいります。また国のほうの事業で、幼保無償化に向けた準備も進めております。3つ目の「暮らし・安心・健康」につきましては、30年経過した防災行政無線の更新を予定しております。予算額は大きいですが、安全な暮らしのために進めていかなければならないことでもあります。また、大きな課題として公共交通の問題があります。今、基本的な計画を立てて、市街地の中を循環させながらいかに市内の公共交通を充実させていくかが課題だと考えております。そして、4つ目「地域力・行政力・共創」においては、金田一温泉地域のまちの再生を、公民連携で進めようとしているところです。国土交通省のパークPFI制度を活用するなど、全国的にめずらしい方法で進めております。また、総合計画にも掲載しております、カーリング場の整備につきましては、これまでも議論いただいているところですが、昨年、実現の可能性についての調査を行いました。そこで出された、資金、運営・維持費、競技人口の拡大の3つの課題がクリアされた際は、進めていきたいと思います、議会でも答弁しているところです。いずれ、各方面で動きながらやっているわけですが、計画の最初にある30年先のみんなの夢として、魅力を生かしてさまざまなことに挑戦するまちとして、自分たちの潜在能力を生かしながらいろいろなことに挑戦しなければならないと思っております。すんなり成功できるとは思っておりませんが、市民の皆さんと一緒に汗をかきながら進めていきたいと思っております。皆さんからも、次の委員会などでも、この事業が進んでいないとか、ご意見をいただきながら進めていきたいと思っておりますので、これからも、どうぞよろしく願いいたします。

小野課長           それでは、次第の3、議事にうつります。ここからは、二戸市総合計画推進委員会設置要綱、第6条の2の規程によりまして、議事進行を佐々木副委員長にお願いいたします。

佐々木副委員長（議長）   ただいまから議事を進めます。さっそく、議事の（1）、地方創生交付金事業の昨年度の成果について、政策推進課の小野課長より、説明願います。

（田中館部長説明、資料1）

佐々木副委員長（議長）   説明が終わりました。何かご質問等ございますか。  
本日は、主要事業の説明に合わせて、「このへ型テロワール」などについてもご説明いただきました。二戸の宝を生かしたまちづくりが発展した形でもあると思いますが、まず始めに、黒沢委員さんは、どのような印象をお持ちになりましたか。

黒沢委員           大変いい事業だと思いますが一つ。今まで、漆かきの道具を作る人がいないと報道等で聞いたことがあったが、二戸にはいるのですか。

山本支所長           おっしゃるとおり、今は漆かき職人が使う道具を作る人もお一人だけとなっております。現在、地域おこし協力隊などが、試験的に道具の製作を行ったりしております。

黒沢委員           それらができて、漆生産のサークルが出来上がるのかなと思っている。

藤原市長 二戸だけでは完成できなくて、田子町には漆掻き道具を作る方がいたり、一戸町には漆の樽を作る方がいたりしますので、また大野の木工もありますので、近隣市町村も含め、漆文化の振興を推進していけたらと思っております。

佐々木副委員長 他に、ご質問やご意見はございませんか。

浪岡委員 30年度の成果を出していただいたが、おそらくここに載ってこないものもあると思う。実は私も「若者元気づくり交付金」の申請をしたが、担当の方の審査により差し戻された。私は、その姿勢が素晴らしかったと思っている。そこで、もしこの資料に載っていない検討中のものがあれば、途中経過等もお知らせいただきながら、市民協働で解決に向けて推進できればと思う。職員に経緯を表して、意見としたい。

佐々木副委員長 他に何かございませんか。  
平委員

私は農業の事しか分からないが、「このへ型テロワール」は非常に良いことだと思う。T P P問題や、大規模農業ばかりを推進しようとする世の中に対し、このテロワールの考え方は、二戸の地域の宝に注目したということで、中山間地の農業に光が当たると思う。私も果樹農家だが、非常に好評で、ふるさと納税の返礼品にも使っている。高価なものというより、「二戸のもの」であることが喜ばれている。私たちが一生懸命つないできた郷土芸能なども、またつなげられる気がする。大規模産業ではなく、小さいまちでも稼いでいけるという他にないところで、この事業を進めてほしいと思う。若い担い手も活躍してきているので、農業も捨てたものではないと感じている。また漆の植栽について、私も農業委員として山を見て歩いているが、農業に向かない荒地などに漆を植えることを推進していく形を、農林課と農業委員などが提案するような方法などで進めてもいいのではないかと考えている。

佐々木副委員長 ありがとうございます。他に皆さんからご意見ございませんか。  
田家委員

私は環境の面と市民としての面の両方からお話ししたいと思う。二戸より小さい、豊島(てしま、香川県)というところでも、かつて不法投棄が行われていたが、現在はオリーブの木が植えられたり、ユニクロが支援したりしている。二戸市もかつて日本一の不法投棄などと言われたが、何か活用ができるのではないかと考えている。それから、昨年あたりから市内の中心部などにゴミ箱が設置され、景観の向上などにより地域住民が喜んでいる。また、若者からは「働く場所がない」と言われている。誘致や起業などを積極的に行うとともに、このへ型テロワールも進んでいくといいと感じている。

長葭委員 私も、公民連携の形であるのにこのへ型テロワールは非常に良いと思っている。市民の力を結集して進めていこうという姿勢が感じられる。せっかくある二戸の宝を活かしていくことは必要。また、国のほうが先行していろいろな事業を作り始めているので、アンテナを広げて活用していくことを期待している。

堀内委員 私は観光分野の面で参加しているが、情報発信は観光業務の中でも非常に大きなウェイトを占めていると思う。二戸市の情報は今、非常に多く発信されており、県外の観光客の方々からも反応があり、二戸のPRをしてくれる方が増えていると感じている。それから、当協会の職員がJRの宣伝業務を行っているところ。その縁で今度、JRの首都圏、南武線沿線で二戸のPRをしてくれるという話があるので、これらをきっかけに伸びていけばいいと期待しているところ。

平委員 先ほどの堀内委員のお話の関連だが、我々が行っている収穫体験ツアーに、沖縄県の方が

参加してくださっている。収穫はもちろん、実がなっているのも見たことがない方々で、とても反応が良い。また去年は台湾からの観光客も訪れた。まだまだお願いしたいという話もいただいているが、こちら側の受け入れ態勢が整っておらず、苦しい状況。二戸市は空路からのアクセスも良く、非常に良い場所だということで、問い合わせが多い。我々の受け入れ態勢はもちろん、地元農家の不安等もあり、課題はさまざまだが、外貨を稼ぐということと市外の人とふれあう機会を増やしていくため、人に慣れる経験を積むことが必要なのではないかと考えている。

佐々木副委員長 他にございませんか。なければ次に進みます。議題の（２）、市民協働について。事務局より説明をお願いします。

（小野課長より説明、資料２）

佐々木副委員長 説明が終わりました。地域や町内会の活発な活動を支援し、目指す姿に「みんなで創る ふるさと二戸」を掲げております。皆さんからご意見、ご質問等ございませんか。

藤原市長 皆さんにとっては初めて聞く方もいらっしゃると思いますが、一番身近な町内会の困りごとなどに対応するための補助金となっております。これから町内会にとっての課題といえば、若者の減少などがあげられると思いますが、その際、除雪や災害時の対応などがより大変になってくると思われま。また、お祭りなどもやめざるを得ない、消防団の維持なども大きな課題となっております。市民の皆さんからいろいろなお話を聞く立場の皆さんだと思いますが、町内会においても、このようなことで困っているから、それに対応する補助がほしい、という要望のまとめ方になってくるのではないかと考えております。委員の皆さんからもご意見等いただけたらと思います。

浪岡委員 やはり、そのような場面においては、取りまとめができる人材を育成することが大事になると思う。出前講座等を通じ、若い人を育てていくなどという方法も考えられるのではないかと。年配の方々も、自分たちもいつまでこの役割を担えばいいのか、と悶々としているようだ。

藤原市長 極力町内会の実情を我々が知らなければならないというのが前提だと思っています。例えば、中心部のゴミ置き場等についても、先ほどお褒めの言葉もいただきましたが、そのような課題の解決に向けていろいろ試していけたらと思っています。

浪岡委員 本当は市議会議員の方々が動いてくれるとありがたいのですが、なかなか難しい面もあるのかもしれないが。

石輪委員 私の場合、地域活動には義理の母が参加しているので、詳しい内容は把握していないが、町内会のこういった活動に補助が受けられるのか。

藤原市長 詳しくは後日説明させていただければと思いますが、町内会が抱える悩みのほとんどは解決できると思います。環境衛生や道路維持など。それで、今の枠に該当しない部分は、本当に悩んでいるものであれば、補助制度を作らなければならないと思っています。例えば、国の補助についても、条件に該当しないからだめだ、というのではなく、該当しないなら該当させるものをつくればいいのか、と提案していく必要があると考えております。

小野寺委員 うちの町内会でも積極的に出前講座の活用など行っており、町内会長が率先して活動している結果だと思っている。先日開催した出前講座には、地域から本当に多く参加してくれた。やはり、そのような制度を良く理解している地域とそうでない地域があると思うので、市民参加が促されるよう、周知等も行ってほしいと思う。

田中館部長 実は、地域担当職員を配置しており、参加について促しているところですが、要請がなければ出向くことができません。連動して地域の問題をカルテにして整理し、それに見合った補助金を申請するという仕組みに、一応はなっています。各地で説明会も開いていますが、なかなか集まりません。ですので、皆さんの町内会でもぜひ、率先して補助申請や出前講座の開催などを行っていただければと思います。

平委員 今の関連だが、私の地区にも市職員がいたときはよく利用させていただいたが、現在は町内会の集まりにも半分以下の参加がほとんどで、補助申請等も「面倒くさそうだ」と敬遠されることが多くなってきている。積極的に周知していただけるとありがたい。

佐々木副委員長 間もなくご案内の時間となりますが、最後にご意見等あれば伺います。

長葭委員 瀬戸内寂聴師の京都での講話を、盛岡市でライブビューイングするとのことだが、二戸の寂聴記念館においても、京都とつながるような仕組みを検討してはいかがか。せっかくつくったものがもったいない気がする。

藤原市長 天台寺においても、寂聴さんが来るとき以外はほとんど来ていただけないという現状です。一般の方が、寂聴さんの何を求めてここに来ていたかということになります。悩みを聞いてほしいということなのかもしれないのですが、寂聴さんも今年 96 歳になられますので、もうこちらにお呼びするのは難しいと思いますが、何かできないかなとは考えております。浄法寺地区の方にもかねがねお話してきております、旧岡本小学校跡地の活用についても、道の駅や歴史民俗資料館という案がありましたが、現時点では検討中でございます。寂聴さんの何を求めているかというポイントをつかみながら、どのようにしていけばよいか考えていかなければならないと思っております。ちなみに東日本大震災の際は、寂聴さんのメッセージを発信した経緯があります。

佐々木副委員長 皆さんからたくさんのご意見を賜り、またつたない進行にご協力いただき、ありがとうございました。これにて議事を終了したいと思います。

小野課長 佐々木副委員長、大変ありがとうございました。これにて、平成 30 年度第 2 回二戸市総合計画推進委員会を閉会いたします。お疲れさまでございました。

～～～ 閉会 午後 2 時 5 0 分 ～～～